

があつた由。

(一) 宮崎県本城地区→(串門地区改良普及員)

上記、都井岬附近にて異常斃死が見られたと同時期頃に磯建網の漁獲物に半死の状態のものが多かつた(死亡したものはなかつた)。魚種はチダイ、ニベ。

(二) 奄美大島、屋久島沖→(南郷地区普及員)

一本釣出漁船が同附近にて瀬魚、ハチ、シビの死亡浮遊していたのを多量にみつけ一部持帰つた者もあるという(日時不明)。

(資料……雨水研延才36号……昭和38年3月26日による。)

### 3 鹿児島県沿岸海況異変

宇田道隆(東京水産大学)

(鹿児島県水試「うしお」才81、82号による)

著低温、高鹹。本年1月以来異常寒波の影響顕著で1月中旬頃から県下各地で(山川湾、阿久根、草垣島、黒島、種子島、屋久島、奄美大島等)魚類の斃死現象をみ、底棲魚が主で、メバル、ベラ、カワハギ、ウツボ等が多い。屋久島1月下旬～2月上旬水温平年より $3.7^{\circ}\sim 3.8^{\circ}\text{C}$ で著しく低温であつた。2月12、13日大島海峡久慈湾でヒレナガ、ハギ、サザナミハギ、ヒフキアイゴ、イツトウダイ、タテジマヤッコ、ブダイ、オオヨロイウオ、フグ類、甲イカ、キントキダイ等約600Kgの斃死浮上を薩南カツオ漁は異常寒波で水温例年にくらべて $2\sim 3^{\circ}\text{C}$ 低く、漁期1カ月ぐらいおくれた。

昭和 38 年	2 月分	表面水温	平 年 差	比 重	平 年 差
	上 旬	14.6 <sup>°C</sup>	-1.0 <sup>°C</sup>	27.25	+1.86
	中 旬	14.4	-1.0	27.11	+1.75
	下 旬	14.0	-1.5	27.42	+2.28
	月平均	14.3	-1.2	27.26	+1.94

#### 4 奄美大島（特に大島海峡）における魚類の異常斃死

徳 留 陽 一 郎 （鹿 児 島 県 水 産 試 験 場 大 島 分 場）

##### (1) 概 況

昭和 38 年 2 月 12 日頃より大島海峡内の久慈湾、薩川湾で沿岸底棲魚を主とした斃死魚がみられ、2 月 13 日に至りその数は増し、推定 1,000 Kg 以上にのぼった。そして 14 日から減少し、15 日以後は数尾をみる程度に終わった。

##### (2) 結 果

斃死魚はハギ類を主に下記の魚種であつた。ヒレナガハギ、サザナミハギ、ヒフキアイゴ、イトトウダイ類、タテジマヤツコ、ブダイ、オオヨロイウオ、フグ類、甲イカ、キントキダイ類、なおムロ、キビナゴ等の表層遊泳魚の斃死はみられなかつた。

異常斃死の原因についてははっきりしたことは掴むことは出来なかつた。ただ解剖検鏡では肉質、内蔵共に異常は認められず、薬物、爆発物等によるものではないことが確認された。外観上は尾鰭、しり鰭に若干の損傷がみられた程度であつた。

一説にいう海水の異常低温が直接の影響かどうかは不明だが 1 月中殆んど西又は北西の季節風が強く吹き、連日あられが降り、古老の話では、